

### 全国慶應学生会連盟の独自財源支出申請

・全国慶應学生会連盟が独自財源支出の承認の為、全塾協議会の場で内容の説明をしました。

<内容>

全国慶應学生会連盟では毎年12月に代表者の交代に際した納会を行っていて、今回はその為の飲食費の支出を申請する。金額としては、昨年は約7,000円を支出したので、今回もその程度であると予想される。

<評決> 承認

### 三田祭実行委員会の独自財源支出申請

・三田祭実行委員会が独自財源支出の承認の為、全塾協議会の場で内容の説明をしました。

<内容>

今回は、以下の2つの支出を申請する。1つ目は、三田祭期間中に行う講演会のゲストに対するケータリング代である。ゲスト1人につき1,000円を9人について支払うので、合計で9,000円となる。また2つ目は、前夜祭に出演するアーティストおよびスタッフに対するケータリング代である。これについては、当日になって必要な支出が増える可能性もあり、現段階では金額が推定できない。よって財務局長と相談の上、事後申請という形を取らせてほしい。なおケータリング代は出演料とは別で、金額が大きい時は10万円ほどになることもあるが、あくまで飲食費のみの支出なので、何十万円にもなることはない。

<質問・意見>

若月(局長): あまりに高額な場合や不適切な品目への支出については、たとえ支払済みであっても承認できないこともある。注意してほしい。

藤田(全慶連): スタッフ1人あたりの支出額が妥当であれば、承認しても良いのでは。

東(四谷自): 独自財源支出であるため、そこまで厳しくする必要はない。

若月(局長): 10万を超える高額な支出の場合は審議しますので、その際は連絡してください。

<評決> 承認

## 国際関係会の独自財源支出申請

・国際関係会が独自財源支出の承認の為、全塾協議会の場で内容の説明をしました。

<内容>

今回は3点の支出内容について承認をいただきたい。1点目は留学生用の携帯電話代で、これはプログラムに招く留学生が個人的に持つ携帯電話が日本では使えないため、日本で使えるものを一時的に提供するというもの。この支出はリーダーズキャンプ以前に発生したもので、当時は事前申請が必要とは把握していなかったため、今回は事後申請の形になってしまった。金額としては、プリペイド式のものの本体を購入するのみで通話料は留学生の自己負担としているので、本体1台あたり約1万円少々かつ留学生の人数が13人と仮定して、合計十数万円となる。もし留学生が13人以上になる場合は買い足すことになる。日本ではヨーロッパの携帯電話が使えず、連絡が取れないと留学生が迷子になる可能性もあるため、携帯電話の購入はどうしても必要である。

2点目は、夏期プログラム協力団体へのお礼として購入する品代である。国際関係会では毎年、夏期プログラムに協力してくれた団体へ慶應クッキーをお礼として贈っている。金額は1890円となる。

3点目は、マスク代である。国際関係会内でも夏に新型インフルエンザが流行し、夏期プログラムでの感染拡大を防ぐため、マスクを購入した。金額は698円である。こちらも事後申請の形となるが、承認をいただきたい。

<質問・意見>

若月(局長): 携帯電話代について、留学生の人数は毎回変わるのか。

後藤(I.I.R.): 2~3人程度は変動する可能性があります。

若月(局長): 日本でも使える携帯電話を持つ留学生の分は除外できないか。

石原(I.I.R.): 使えるかどうか事前に確認させても、間違っている場合がある。

<評決> 承認

## 国際関係会の代表者交代申請

・国際関係会の代表者の交代にあたり、新代表の石原氏が全塾協議会の場で挨拶しました。

<評決> 承認

## 園遊会開催有志の直訴

・来年度の園遊会を開催したいとする有志が、全塾協議会の場で構想の説明を行いました。

<内容>

2007年を最後に廃止された園遊会を、塾生の手によって復活させたい。慶応義塾には、入学式に対してオリエンテーション、学園祭として三田祭、といった具合に学生が自主的に運営するイベントがあるが、卒業式には無い。そこで、園遊会を復活させることには、塾生自治の観点から大きな意義がある。具体的な構想としては、園遊会実行委員会を設立し、今年度は選挙の手伝いなど全塾協議会へ貢献しつつ、来年度に公認団体となり、園遊会を実施することを目標としている。実行委員会の形態として、毎年解散していたのではノウハウが残りにくいと、永続的な団体として立ち上げたい。現在、自分の知り合いなど身の回りから5名が集まっていて、それ以上は大々的に募集しようと考えている。幹部候補として7名ほど集まり次第、本格的に活動を開始する。

<質問・意見>

藤田（全慶連）：構想はいつごろからあったのか。

田倉（有志）：先月ころからありました。

藤田（全慶連）：自分の身の回りから集めたというが、そのコミュニティとは何か。

田倉（有志）：サークルと自分が委員長を務める経済系のゼミ、他学部の知り合いです。

藤田（全慶連）：現時点での構想はどこまで決まっているか。

田倉（有志）：1回目の会場はホテルにする予定です。あまりチャレンジはせず、堅実な企画を立てたいため。

藤田（全慶連）：一昨年までの園遊会で何が問題だったか把握しているか。

田倉（有志）：ホテルのダブルブッキングや資金管理の面と聞いている。

若月（局長）：それに加え、参加する塾生の醜態もある。

田倉（有志）：委員会の規模を大きくして、警備の層を厚くしたい。體育會への外注だけでなく、自主的な警備もできる組織にしようと考えている。

東（四谷自）：卒業生同士の結束という目的を加えるべき。

田倉（有志）：それも含め、園遊会によって塾生の結束を強めたいと思う。

東（四谷自）：個人的に、卒業式だから塾生自治のイベントを開催したいというのは、外部に対する説明力が弱い気がする。

藤田（全慶連）：外部に対する説明の為だけでなく、自分たちの持つ目標としても何か持つべきである。

若月（局長）：卒業記念品事業は行うのか。

田倉（有志）：二万円にもなるなど高額なものではなく、適正価格の範囲内で行いたい。

若月（局長）：実際に発足して活動を始めた場合、毎月の活動を全塾協議会の場で報告することになるつもりで来てください。

## 平成 21 年度選挙における立候補者の挨拶

・平成 21 年度の選挙における立候補者が全塾協議会の場で挨拶しました。

< 内容 >

立候補者は 3 組。第一組は全塾協議会事務局出身ペアで、局長候補は事務局員である園部誠弥（法政 2）、次長候補は現在日吉代表と広報局長を務める渡邊潤（法法 2）である。第二組は経営会計研究会出身で、完全に全塾協議会の外部から出馬。局長候補は高田孝平（経 2）、次長候補は吉本卓也（経 2）。第三組もまた全塾協議会事務局出身ペアで、局長候補は現在財務局長を務める神村健太郎（法政 2）、次長候補は事務局員であるレダ太郎（文 2）である。今後、各組の公約が出揃い、選挙活動が開始されることとなります。

## 全塾協議会報の発行報告

全塾協議会の広報担当者が、全塾協議会報第 2 号の発行を報告しました。

< 内容 >

全塾協議会報の第 2 号を発行した。なお、次号は選挙に関する記事を多く取り上げる予定となっている。この会報がいずれ所属団体間の情報共有ツールとなる事が 1 つの目標である。

## 記念品事業について

全塾協議会が先導して行ってきた今年度の卒業記念品事業について議論されました。

< 内容 >

記念品事業を担当していた者が現在、多忙のため事業が進んでいない。このまま停滞するようでは、誰か引き継ぎたい者がいなければ事業を中止した方が良い。

< 評決 > 中止

## 次回の全塾協議会日程について

日時 12 月 15 日（火）18:30～

場所 三田キャンパス

全塾協議会 HP : <http://www.keio-zenkyo.com/>

全塾協議会事務局 部室：日吉 塾生会館 221 号室

三田 西校舎学生団体ルーム 11 番

同 学生団体ルーム 27 番